

社会性の構築

2008/05/18 神戸定例会

藤坂龍司

1. 社会性の様々な意味とレベル

- ・自発的に人の動作をまねする
- ・人の指示に従える
- ・親しい人の喜怒哀楽に反応できる
- ・進んで目を合わせる
- ・人の痛みがわかる
- ・人の気持ちがわかる
- ・人の痛みや悲しみに同情できる
- ・友情や恋愛を育むことができる

<健常児の社会性の発達> KIDS (乳幼児発達スケール) より

対大人社会性	対子ども社会性
3ヶ月 人を見ると笑いかける	
6ヶ月 親しみの顔と怒りの顔がわかる	
9ヶ月 母親にまわりつく	
10ヶ月 拍手などをまねする	
12ヶ月 ほめられると同じことを繰り返す	12ヶ月 同じ年の子どもとオモチャの取り合いをする
1才4 親の反応を窺いながらいたずらをする	
1才半 簡単な手伝いをしようとする	1才半 友達にオモチャを貸してあげる 友達と手をつなげる
3才 自分が作ったものを見せたがる ほめられるともっとほめられようとする	2才 子ども同士で鬼ごっこをする
3才半「オモチャを貸してあげなさい」というと 指示に従う 幼稚園や保育園の先生の指示に従う	3才 ままごと遊びで何かの役を演じる テレビの主人公遊びをする
5才 親に行き先を言って遊びに行く	4才 ブランコなどで自分から順番を待つ 砂場で2人以上の子供でひとつの山を作る かくれんぼで見つからないようにする グループが一つになってごっこ遊びができる
	5才 じゃんけんで順番を決める 禁止行為をした子に注意する

2. 社会性構築のポイント

- ・基礎としてのコンプライアンス（かんしゃくを起こさず、すなおに指示に従える）

- ・一次性強化子と社会的な刺激との対提示

笑顔で目を合わせながら子どもの好きなお菓子を与えると、子どもは（ ）が好きになる

- ・喜怒哀楽をはっきり示す

「ほめるときには蜜のようにやさしく、怒るときは地獄の炎のように」

- ・喜怒哀楽に結果を伴わせる

お母さんがよろこぶといいことがある。お母さんが怒ると悪いことが起る

↓

お母さんが喜ぶとぼくもうれしい。お母さんが怒るとぼくは困る

- ・決め手は「ABA 的関わりのシャワーを浴びる時間×先天的な社会性の障害の度合い」？

- ・健常児との交わりの必要性

ただ集団の中に入れるだけではダメ。しかしある時点が来たら決定的に重要に

まずは後追いと模倣から

3. 社会性促進プログラム

（1）自発模倣

自発的な模倣の重要性

<教え方>

動作模倣が上手になってきたら、「こうして」の指示をなくし、無言で動作だけをする。模倣したら強化する。

強化子も徐々に間引いていく。

手遊び歌やダンスなど、楽しい動作模倣の機会を多くし、模倣の自発が見られたら、思い切り強化する。

（2）目合わせ

指示のときより、正解して強化するときにアイコンタクトを取るように心がける

<「こっち見て」ではなく、自発的な目合わせを促す方法>

向かい合ってすわり、目が合うまで待つ。目が合ったら強化。2 分間で何度目が合うかを記録してみ、目が合う回数の増加を目指す。最初は正面で。次は斜めや横にすわっても目が合うように。

（3）人を好きにさせる

自己刺激より適切なおもちゃ遊び。一人遊びより関わり遊びに従事させる。ただ従事させるだけでなく、ふんだんに強化を伴わせる

近所の子どもを招き、一緒に過ごす時間を設けて、そこに強化子（おやつなど）を集中させる

（４）関わり遊び

①遊びの動作を模倣させる。遊びに関する指示に従わせる（遊びにおけるコンプライアンス）

抵抗しても強引にリードする。かんしゃくを起こしたら、無視して消去。
従えたら強化。テンションを高くし、一人遊びよりも楽しい時間に。

上手になったら、子どもに少し自由を与え、リードしたり、されたりを繰り返す

②遊びながら、興味や喜びを共有する。

うれしいときに目を合わせ、にっこり笑い、声をかける

遊び道具の貸し借り（シェアリング）

③遊びにおける「やり返し」を教える

例：車をぶつけたら、ぶつけ返すことを求める

お料理を子どもに「どうぞ」したら、子どもにも「どうぞ」し返すことを求める

タッチして逃げ、追いかけさせる→追いかっこ

ヒーローごっこで、切られたら切り返す。撃たれたら撃ち返す

④遊びにおける想像の共有（ごっこ遊び）

例：「これは電車だよ」と言っつつみきを渡し、しばらくつみきを電車に見立てて二人で遊ぶ

「ここはおうちだよ」と言って、エリアを決め、お家ごっこをする

ごっこあそびにおいて決められた役割を演じさせる

⑤勝ち負けのある遊び

早い者勝ち

すごろく

じゃんけん

(5) 他者視点の取得

「相手の立場に立つ」「相手のみになって考える」ことを教える

まず「〇〇ちゃんは何が見える?」「お母さんは何が見える?」から

「相手に見えないように隠す」ことを教える

(6) ソーシャルスキル・トレーニング (SST)

年長児や高機能児向け

・人との付き合いに必要な様々なスキルが具体的にどの部分で足りないのかを観察し、課題を決める
例：相手にお構いなく、自分のことを一方的に話してしまう

・いまからやることを子どもに説明する

↓

・正しい行動のモデルを示す (モデリング)

↓

・子どもにやってみさせる (リハーサル)

↓

・よいところをほめ、修正すべき点を指摘する (フィードバック)

↓

・現実場面に応用させる

その場に誰かがいられれば、その場で強化

さもなければ自分で自己評価させる (セルフ・モニタリング)